

第42回只見町文化祭

第42回を迎えた只見町文化祭が、11月3日から4日の二日間、町下町民体育館をメイン会場に開かれ、町内外から延べ2600人が来場、文化の魅力にふれる、年に一回の祭典に人びとが集い、にぎわいました。



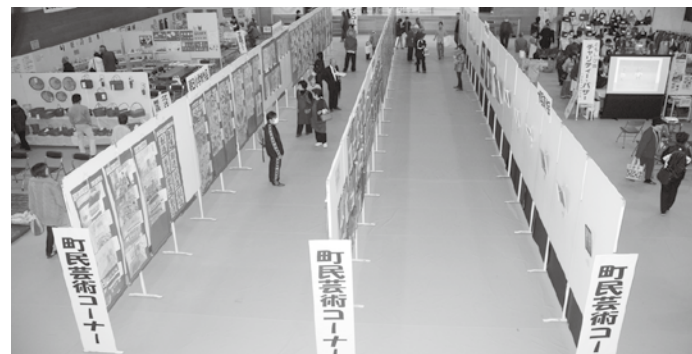
▲目黒町長と関係者によるテープカット



▲開館式で披露「只見小鼓笛演奏」

町下町民体育館前で行われた開館式で、実行委員会会長の目黒町長は「昨年は東日本大震災や新潟・福島豪雨と、大災害に見舞われ、文化祭も規模を縮小しましたが、今年は新たな内容の文化祭となりました。メインコーナーでは、ユネスコエコパークへの登録を目指す町の取り組みを紹介しています。この登録は地域活性化の手がかりで、その後の全町民による取り組みがとても重要です。皆様のご協力をお願いします。また、会場内にはすばらしい作品が展示されていますのでご鑑賞ください」とあいさつしました。続いて、目黒町長、齋藤邦夫町議会

オープニング・セレモニー



▲メイン会場の町民体育館

議長、飯塚恒夫町文化協会会長、渡部仁一町教育委員長職務代理の4名によりテープカットが行われ、只見小学校児童による鼓笛隊演奏がセレモニーに華を添えました。演奏が終わると詰めかけた方々は次々と入場されました。

文化の魅力にふれた二日間

今年の文化祭は「地域の魅力を再発見」をメインテーマに行われ、芸術作品の展示と併せ、各コーナーの体験メニューも豊富で、来場者の真剣に取り組み姿がそこかしこで見られました。メインコーナーでは、ユネスコエコパークの紹介と、その登録を目指す町を取り組んでいる内容などをパネルや冊子で紹介、



▲世代間交流コーナーの折り紙体験



▲ユネスコエコパークについて紹介したメインコーナー



▲貴重な遺物が展示された「黒谷館跡」発掘コーナー

つなげよう・広げよう・文化の絆 ～地域の魅力を再発見しよう～



只見小体育館で開かれた野球教室▲



「ぼくとわたしの朝ごはんコンテスト」入賞者のみなさん▲

華やかに、美しく...

只見町文化協会 芸能発表会

只見町文化祭事業の一環として、11月11日、只見町文化協会芸能発表会が、季の郷・湯ら里で開かれました。出演団体は、只見音楽研究会、宝生流謡曲研究会只見松楓会、コーラス・はなみずき、はぎの会、瞳の会、只見民謡会、只見つくし会、蒲生花輪踊り保存会、天領只見仙嶽太鼓保存会の文化協会に加盟する9団体の皆さんで、美しい歌声や華やかな舞踊、さらに勇壮で迫力のある太鼓演奏などを次々と披露、お互いのできばえをたたえ合いながら交流し、親睦を深めました。

また、大勢の来場者は、最後の演目が終了するまで大きな拍手を送り、芸術の秋にふさわしい一日を出演者とともに過ごしました。



訪れた方には職員が詳しく説明していただきました。
健康づくりコーナーでは「ぼくとわたしの朝ごはんコンテスト」の表彰式が行われ、入賞者には久保副町長から賞状や記念品が手渡されました。また、橋本重厚福島県立医科大学准教授の血圧管理に関する講演会も開かれました。
生涯学習展示コーナーでは今年発掘作業が行われた「黒谷館跡」から出土した土器などの貴重な遺物が展示され、来場者の目を引いていました。

只見町赤十字奉仕団が行なったバザーやNPO法人こまどりの雑貨販売、体育館ピロティで行われた物産販売なども大勢の方でにぎわい、大好評でした。さらに、只見小学校体育館では、元ロケットマリインズの和田孝志投手らを講師に招き、野球教室が開かれ、小中学生が憧れの元プロ野球選手から練習のコツなどのアドバイスを受けていました。また、森林の分校ふざわでは4日に森林のふれあいコンサートが開かれ、さわやかな歌声や楽器演奏が披露されました。

今年も、テーマのとおり、訪れた方々が思い思いに文化を体験し、文化に親しみながら、地域の魅力を再発見できた文化祭になったと感じました。



ろくろを使った陶芸体験も人気▼